

# ふれあい

第 166 号

令和 2 年 3 月  
青森県立中央病院  
(題字は藤野院長)



## 院内部門紹介

入院前から患者さんをサポートします  
～「療養と連携センター」～

医療連携部 主任看護師  
岩村 仁子



県立中央病院の医療連携部に、2019 (H31) 年 4 月に新設された「療養と連携センター」について紹介します。療養と連携センターは、患者さんが当院を初めて受診された時から入院、退院までを通して支援する「入退院支援」を目的としています。

入退院支援とは、患者さん、ご家族にとって聞き慣れない言葉かもしれません。患者さんにスムーズに治療を受けていただくために、必要な情報や希望、心配などを入院前に把握し、退院後の生活までを含め、医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、栄養士、社会福祉士など各専門職が関わってサポートしていく取り組みです。その中心的役割を担うのが療養と連携センターであり、センターに配置された看護師を「療養支援看護師」と呼んでいます。

これまで、患者さんが当院を受診した時から入退院までを通してサポートさせていただく部署がなかったため、患者さんにとっては外来、入院病棟で同じことを聞かれたり、同内容の説明を聞かされたりといったわずらわしさを感じる場面もあったかもしれません。また、治療を受けるにあたり必要な準備、予測される生活への影響、困りごとなどをいつ誰に相談すればいいのかわからないと不安を抱えた方もいらっしゃると思います。

後に注意すべき身体的リスクの軽減に努め、最善策を考えます。また、担当の薬剤師が、飲んでいるお薬を「お薬手帳」で確認し、検査・治療のために休むお薬などを鑑別し、服薬指導を行います。

また、患者さんに治療の経過や退院の目途をイメージしていただけるよう、センターでは、入院前に、検査や手術の予定、リハビリなどの治療内容のほか、食事、入浴などの生活の流れについても説明します。

療養支援看護師は、入院中も主治医、病棟看護師などと共に支援します。転院先の調整や、退院後の療養についてもケアマネージャー、訪問看護などと連携して支援します。

現在、対象としているのは、消化器内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、歯科口腔外科などの診療科の初診および予定入院患者さんに限っていますが、段階的に拡大して将来的には全ての入院患者さんに対応していく予定です。

療養と連携センターは、患者さんが初めて受診した時や、入院前の一番不安なときから、丁寧に相談に応じ、退院後まで一貫してサポートしていきます。患者さん、家族が地域で生活していく上では、介護、福祉ほか多くの方々の支えが不可欠であり、これまで同様、厚い信頼・協力関係の下で取り組んでいきたいと思っています。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

外来看護師

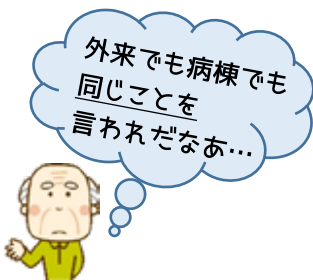


入院する時の  
注意点を話しますねー



病棟看護師

入院の時に注意して  
もらうことがあります



外来でも病棟でも  
同じことを  
言われだなあ...

療養支援看護師



療養と連携センターで面談

カンファレンス



外来 → 入院 → 外来 → 地域へ



そこで、療養支援看護師が、初診来院時と、入院決定時など、それぞれのタイミングで患者さんと面談します。患者さんには病歴や生活背景などを尋ねます。紹介元の医療機関からの情報だけでなく、既往歴、アレルギーなどを詳しく把握し、入院

## トピックス

### 子どもを「知る」 ～ペアレント・トレーニングの活用～

小児科 副部長  
渡部 潤子



小児科医に対して、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか？私自身幼い頃は、「子どもが風邪をひいたら行くところ」と思っていました。しかし、受診資格は小児というだけで、呼吸器、心臓、腎臓、神経、血液といったあらゆる分野の疾患に遭遇することになります。咳や発熱以外にも、頭が痛い、足が痛い、お腹が痛い、胸が苦しい、食欲がないなど訴えは様々です。扁桃炎や胃腸炎などの感染症の症状に似ていても、自己免疫に関わる病気や、悪性の病気など重篤な「体の病気」が隠れていないか慎重に診察を進めていくこととなります。お話を伺いながら、同時にお子さんの表情や視線、保護者とのやりとりから「心の困りごと」の有無を見極めようと努力します。様々な検査で異常が見つからない時には大事な情報となるからです。私たちの「診る」は、見て、聞くことで、「子どもを知る」ことだと思っています。

さて、最近の外来では、「心の困りごと」が体調不良の原因と思われるお子さんに多くお会いします。中には保護者とのコミュニケーションのすれ違いで、自己評価が低くなっている子どももいます。保護者は、心底心配しているのに、子どもの側に伝わっていないのが見える時はとても残念な気持ちになります。こうした場合、最近よく耳にする発達障害が関与していることも多く、ペアレント・トレーニングについて勉強するようになりました。

ペアレント・トレーニングは、元々20年ほど前にアメリカで始まったプログラムで、注意欠如多動性障害(ADHD)や自閉症スペクトラム障害といった発達障害の子どもを持つ保護者のために考え出されたものです。本来は2週に1回程度のグループワークを全10回行い(3-6ヶ月)、子どもの行動に焦点を当てつつ、親子のよりよいコ

ミュニケーションを促すものです。私は日々の診療で活用する中で、実は子育て中の保護者全般に役立つ部分が多い事に気がつきました。まずは、子どもの行動を見て、なぜそのような行動をしているのかを考えながら観察します。その上で本当に注意すべき困った行動なのか、認めてあげるべき行動なのか、そのどちらでもないかを振り分けてみます。(これには多少の慣れが必要なので、まずは観察からはじめましょう。)よくある親子の悪循環は「問題行動→怒る→反抗→失望→温かい関わりを失う」といったことを繰り返しているようです。これによって子どもの自己評価が下がり自尊心が損なわれると言われています。この悪循環のどこかを断ち切って良い親子関係を築くため、行動に着目するのです。大人が見方を変えて子どもへの接し方を変えると子どもの方の態度も変わります。最近、わかりやすい書籍が多く出版されていますので、一度読んでみてはいかがでしょうか。


私たち小児科医は、子ども達のからだところが健やかに育まれるように成長発達を支えて行くことを目指しています。

### 小児科からのお知らせ

午前中：一般外来 午後：専門外来\*

\*アレルギー外来、心臓外来、慢性外来、発達外来。その他、弘前大学からの応援をいただき、神経外来、内分泌外来、腎臓外来を設けています。

あらかじめ予約が必要です  
まずはお電話で御相談下さい

 017-726-8201





## 1. インバウンド感染症について

今年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、海外から多くのお客さんが青森県にも来県する可能性があります。その際、国内ではまれで、また報告されていないために診断が容易でない感染症<sup>1)</sup>が発生する可能性があります。また、海外で知られている耐性菌が国内に持ち込まれる可能性があるため、インバウンド感染症として注意喚起をしているところです。インバウンド感染症の感染防御には何が大切でしょうか？

## 2. バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)

昨年度、青森県内では、バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)がアウトブレイクしましたが、環境清掃、手洗い遵守、个人防护具の適切な使用により制御できました。中でも、最も大切なのは基本となる標準予防策としての手指消毒、个人防护具の適切な使用でした。医療従事者のみならず、入院した患者さん等にも、食事の前・後、調理の前、排せつの前・後の手洗いの重要性を周知し、ご協力をいただきました。

## 3. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

2019年12月に中国で発生した新型コロナウイルス感染症は、国際的な広がりを見せ、SARS、MERSを超える患者さんの罹患数・死亡者数となっています。

新型コロナウイルスSARS-CoV-2の性状として、環境表面でも長く生存できる性質があり、感染力が強いため、通常の飛沫感染予防策よりも1段階高い対応がとられています。

しかし、具合が悪くても会社・学校を休めない社会体質などの問題点も浮き彫りになりました。国内でも感染経路が不明な患者が多く発生するようになり(流行地からの入国者としての感染者(1次)、流行地からの入国者と接触した感染者(2次)、2次感染者と接触した感染者(3次)、さらに3次感染者と接触した感染者(4次)・接触した感染者が不明な感染者までに拡大)、自発的自粛により、学会等も中止・延期されています。

## 4. カルバペネム耐性腸内細菌属(CRE)

2017年には1都4県13例(渡航歴5名)検出されたKPCと呼ばれるカルバペネム系抗菌薬耐性遺伝子を有するCREが、2018年には1都1道2府12県から42例(渡航歴9名)検出され、急速に拡大しています。もともと、1996年にアメリカで初めて検出されたこのKPC遺伝子保有CREは、海外で検出されたもので国内では検出されていませんでした。この他、インドの帰国者から検出されたNDM遺伝子を有するCREも報告されました。このようなグローバルな人の移動により、今まで国内に存在せず海外から流入した耐性遺伝子保有細菌による感染症も見られるようになりました。

## 5. 感染予防のキーワードは「手洗い」

インバウンド感染症として恐れられる感染症は、ウイルス感染症や薬剤耐性菌です。また、熱帯系感染症などは診断が困難です。接触感染、飛沫感染、さらには空気感染するものもあります。今回のCOVID-19の感染拡大により、地域住民への感染防御対策の啓発は進んでいます。

従来からの感染予防策である手洗い、咳エチケットやうがいなどのABC【A:当たり前のことを、B:馬鹿にしないで、C:ちゃんとする】を実施することが、インバウンド感染症対策としても重要であることは言うまでもありません。

## 6. 地域連携の重要性

VREでも、地域連携の重要性を実感しましたが、今般のCOVID-19でも、地域連携が大変重要です。地域住民の皆様、近隣病院・医院の皆様、地域の医療従事者の皆様には、何卒、地域の感染管理が適切に保たれますよう、サポートを宜しくお願い申し上げます。

### 参考文献

<sup>1)</sup>国立感染症研究所感染症疫学療養と連携センター 国立国際医療研究療養と連携センター 国際感染症療養と連携センター: ラグビーワールドカップ 2019 日本大会開催中、参加国からの輸入例の可能性のある感染症 <https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/PDF/RWC190913.pdf>

# 宿泊施設のご案内



ファミリーハウス  
あおもり  
NPO法人 青森地域再生コモンズ

遠くから県立中央病院へ通院・入院する患者さんや、付き添われるご家族のための宿泊施設です。

『ファミリーハウスあおもり』は、令和元年7月で開設8年目を迎えました。オープン以来の延べ利用者数は18,000人を超え、県内外からの患者さんやご家族にご利用いただいております。

## (1) 利用料金 (令和2年4月1日現在)

### ● 宿泊料金 (1室1泊 前金制 税込)

シングル (全8室)		2,500円
ツイン (全2室)	1人利用	4,000円
	2人利用	5,000円
ダブル (全1室)		4,000円

※周産期の患者さんやご家族は、ダブルのお部屋を1室1泊2,500円で利用できます。

### ● タイムユース (1人)

0~2時間	600円
2~4時間	1,000円
4~6時間	1,500円
6~8時間	2,000円

### ● 駐車料金 (1台1泊)

駐車料金 (全6台)	100円
---------------	------

※タイムユースは、シングル・ツインのみで、利用時間は9:00~17:00となります。

## (2) 受付時間

受付日	月曜日 ~ 土曜日
受付時間	8:00 ~ 18:00

※事前予約いただければ、休日(日・祝)からの宿泊や夜間・早朝のチェックイン・アウトにも対応可能です。

※救急搬送された患者さんのご家族が急きょ宿泊する場合も対応可能です。(当日の空室状況によっては、ご希望に添えない場合もございます。)

## (3) 施設設備

客室設備	ベッド、エアコン、テレビ、冷蔵庫、机、椅子、電気ポット
共用設備	トイレ、洗面所、シャワー室、電子レンジ、コインランドリー

※タオルや石鹸などのアメニティ類については、フロントで有料貸出や販売をしております。

## (4) 所在地・近隣施設



※近隣にはスーパーマーケットや温泉などの商業施設があります。

## (5) ご利用いただいた方からの声のご紹介

施設全体が清潔に保たれていてとても良かったです。近くに商業施設もあり快適に過ごせて良かったです。	50代 帯広市
徒歩で帰れるので面会時間ぎりぎりまで病院にいられて大変助かりました。	60代 むつ市
電話も受付の対応もとても親切で助かりました。土地勘がない私にわかりやすく説明していただきありがとうございました。	30代 佐井村

今後とも患者さんやご家族の皆様が利用しやすい施設を目指して参ります。

皆様のご利用をお待ちしております。

【ご予約・お問い合わせ先】

**017-736-5332**

(受付時間: 月~土 8:00~18:00)

- ◆ 電話予約の際は、氏名・連絡先、ご希望の宿泊日(日程、人数)等をお知らせください。
- ◆ 夜間や休日は転送電話での対応になります。
- ◆ 直接来館しての申込も可能です。

【所在地】〒030-0913 青森市東造道1-3-1

【HP】 <https://aomori-kenbyo.jp/guide/family>

【管理・運営】NPO法人青森地域再生コモンズ

